赤十字しずおか

Japanese Red Cross Society SHIZUOKA

2016 VOL. 114
回覧

人間を救うのは、人間だ。

〈特集〉熊本地震の被災地に学ぶ

そのとき、起きること。

4月14日、熊本地震が発生。
益城町などでは、現在も避難所生活が続いています。
被災地、避難所ではどんなことが起きているのか。
その状況は、わたしたちにも起こりうることです。

浜松赤十字病院
熊本地震レポート

そのとき、起きること。

4月14日21時26分に熊本地震が発生。
5日後の19日から23日まで、日本赤十字社静岡県支部（以下「静岡県支部」という）からの要請を受け、浜松赤十字病院から7人（医師1人、看護師2人、助産師1人、薬剤師1人、事務職員2人）が日赤救護班として現地で救護活動を実施。
鈴鹿知直先生（浜松赤十字病院副院長・脳神経外科）による、医療を中心とした現地の活動をレポートします。

01 益城町で診療、エコノミークラス症候群防止に課題

出発したのは19日で、陸路を約1,000km、15時間かけて日赤熊本県支部に入りました。仮眠をとって20日朝8時から始動。日赤熊本県支部で打ち合わせをし、私たちは被害が大きかった益城町の総合体育館に向かいました。益城町に近づくにつれ家が崩れている箇所が増え、道がひび割れているところも目立ってきました。体育館に着くとdERU（仮設診療所）はすでに設置されていて、そこで診療を行うことに。37名の方を診察しましたが、ほとんどが外傷、不眠、慢性疾患の方でした。

そして、エコノミークラス症候群の人も。車中泊の人が多いので、どうしてもエコノミークラス症候群になりやすい。ところが、気づいていない人がとても多いのです。予防のための弾性ストッキングを配るなど注意勧告をするのですが、車中泊をする人たちの多くは片づけや仕事に行ってしまうので、昼間はいません。そこが、課題です。

02 熊本市では徹夜で緊急に対応

夜に熊本市内に戻り、熊本赤十字病院で救急外来診察をしました。Walk in（自力で診察に来る人）を含めた救急外来診察数は、1日に350人。夜中でも、ひっきりなしに患者さんが来ます。緊急性の高い患者さんから順番に診るのですが、バタバタしていてカルテを拾っては診るという感じでした。ようやく腰を落ち着けることができたときは、21日の午前5時をまわっていました。

03 現場で見えてきた避難所の問題点

救急外来診療後は、待機指示となり、情報収集と災害時の対策検討協議をしました。

22日には、南阿蘇中学校へ診療の支援に向かいました。現場では下痢・嘔吐患者が発生していて、しかも一部の医師、看護師にも同じ症状が出はじめていました。ノロウィルスの蔓延初期段階にあるものの、隔離部屋が確保できない、トイレの水が使えない、土足厳禁が守れない、出入り口が複数あるなどが原因でした。

これは、難しい問題です。感染症対策を考えれば、もちろん避難所は土足禁止です。しかし、命からがら避難所にたどり着いて靴を脱いでなどかまっていられません。阿蘇の体育館では、応急処置としてブルーシートを敷き、その上を土足禁止にしました。感染を防ぐために仮設トイレも設置しましたが、距離があり面倒になって使ってもらえない。もっと体育館近くの場所選びをした方がよかったと思います。

04 その時には「顔が見える情報」その前には「顔が見える減災」

このように、実際に行ってみないとわからないことが多くありました。最も実感したのは、数字ではなく「顔が見える情報」の共有、申し送りが大切ということ。県や市町、警察からの情報は、どうしても数字になってしまう。数字だけだと、それがどのくらい緊急性のあるものなのか、こちらは後回しでもいいのかなどがわからない。例えば、被災者が600人いるとして、統制されて設備も充実した600人と、大混乱している600人では当然違います。実際に行った人から伝わる情報を大切にすべきです。しかも、その情報が日赤やDMAT(※)の隊員など訓練されている人からの情報なら、差が出ることはありません。

浜松赤十字病院は、浜松市の北部地区で災害医療連絡会を立ち上げています。浜松市と浜北区、医師会、警察、消防、連合自治会が一体になった、静岡県でも特殊な組織です。今、3年目を迎え、年に3回の会合を行い、その時の協力体制を整えています。はじめは「そこまでやるの？」と驚かれていましたが、今では理解が高まって前向きな会話ができるようになりました。地域に限った共通の問題に取り組めるのが大きな特徴です。その時、少しでも被害を減らせるように、「顔が見える減災」に地域ぐるみで取り組んでいます。

※DMAT…災害急性期（おおむね48時間以内）に活動できる機動性を持った、トレーニングを受けた医療チーム

もし

静岡県で大地震などの大規模災害が起きたら…

日本赤十字社では、全国規模で被災地での救護活動に対応する体制を整えています。静岡県の救護班が熊本地震災害の被災地へ駆けつけたように、本社及び他県からも救護班が派遣され救護活動にあたります。仮に東海地震が発生した場合、全国から約60チームの救護班が県内各地へ支援に入る計画になっています。

国内の被災者支援に欠かせない2つの寄付。

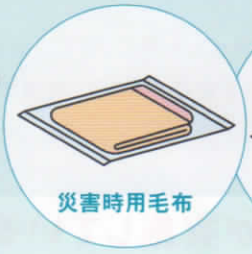
国内の被災者支援を行うために、皆さまからのご協力として欠かせないのが「活動資金」と「義援金」です。

活動資金　救護・支援活動を支える。

日本赤十字社が行う被災地での救護活動や救援物資の配布は、全て無料です。では、その資金はどこから出ているのでしょう。答えは、皆さまから寄せられる活動資金です。私たちは、この活動資金に支えられ、日々の活動に取り組んでいます。

活動資金の主な使われ方

- 災害時の救護活動とそのための備え（医療資器材や車両の購入、訓練ほか）
- 配布する救援物資（毛布や緊急セットなど）の備蓄
- 炊き出しなどのボランティア活動
- 青少年への防災教育
- 救急法や幼児安全法の講習 など



寄付金へのご協力方法

●インターネットの場合

①「赤十字活動を支援する」を入力し検索
②「赤十字活動を支援する｜寄付する｜日本赤十字社」をクリック
③「インターネットから参加（クレジットカード）」または「口座振替による参加」を選択し、お手続きください。

●郵便振替・銀行振込の場合

赤十字の活動資金は、各市区町の赤十字担当窓口または静岡県支部で受け付けております。
また、郵便振替、銀行振込などでご協力いただける方には、送金手数料免除となる振込用紙がございますので、静岡県支部（054-252-8131）までお問い合わせください。

義援金　被災者のお見舞い、生活支援に

被災者に直接届けられる支援が「義援金」です。日本赤十字社や中央共同募金会などの義援金受付団体に託された義援金は、各被災都道府県の配分委員会を通じて被災された方々に配分されます。
手数料などをいただくことなく、寄せられた義援金の100%が被災者に届けられる仕組みです。

平成28年熊本地震災害義援金

受付期間　平成29年3月31日（金）まで
受付口座　郵便振替（ゆうちょ銀行・郵便局）

口座記号番号　00130-4-265072
口座加入者名　日赤平成28年熊本地震災害義援金

※銀行振込、熊本県支部、信用金庫等でも受け付けています。
詳しくは静岡県支部のホームページ http://www.shizuoka.jrc.or.jp/donation/ をご覧ください。

災害救護活動

静岡県支部の災害救護体制

静岡県支部では、県内赤十字病院（静岡・浜松・伊豆・引佐・裾野）に合計10個班の救護班と血液センターに16人の血液供給要員を置き、災害時の救護活動に備えています。

原則として、1救護班は6人で編成（医師1人、看護師長1人、看護師2人、事務職員2人）しています。また、大規模災害発生後、一刻も早く被災地における診療を開始することを目的として平成18年にdERU※を整備。運用時には、必要に応じ救護班に助産師や薬剤師などを加え対応します。

※dERUとは、大型テントやベッド、診療台、薬剤カートなど、仮設診療所に必要な資機材が1台のトラックに登載されており、この車両と訓練を受けたdERU要員、それらを運用するためのシステムの総称。

災害救護訓練や研修の実施

静岡県支部では、災害が発生した時に、直ちに被災者の救護にあたれるよう、日ごろから災害救護活動に必要な知識や技術の習得と迅速な行動力を養成するため、救護要員に対し訓練及び研修を行っています。

静岡県支部が実施している訓練

- 静岡県支部主催災害救護訓練
- 静岡県支部災害救護実施対策本部運用訓練
- 日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練
- dERU展開訓練
- 静岡県総合防災訓練、情報伝達訓練、原子力防災訓練
- その他防災関係機関との協働訓練

災害救援品の備蓄

災害時に迅速かつ有効な救援対策がとれるよう、災害救援品の備蓄をしています。

- 毛布…… パック加工された毛布
- 緊急セット…… 携帯ラジオ、懐中電灯、風呂敷など
- 下着セット（静岡県独自）…… Tシャツ2枚、下着2枚
- タオルセット（静岡県独自）… バスタオル1枚、フェイスタオル・ハンドタオル各2枚

CROSS TOPICS!

日赤と関わりの深い熊本が被災！

「ジェーンズ邸」は、熊本洋学校に迎えられた外国人教師、リロイ・ジェーンズ氏の住宅として1871年（明治4年）に建てられました。木造二階建ての建物で、熊本県最古の西洋建築とされています。西南戦争の折、佐野常民（さのつねたみ）が、日本赤十字社の前身となる「博愛社（はくあいしゃ）」の設立を願い出、許可がおりたのもこの場所。日本赤十字社発祥の地とも言える「ジェーンズ邸」が、熊本地震により倒壊してしまいました。下の写真は、被災前のものと被災後のものです。

ジェーンズ邸 被災前

ジェーンズ邸 被災後

PRESENT!

「ハートラちゃんホイッスル」を30名様にプレゼント！
以下を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③年齢 ④赤十字しずおかvol.114のご意見・ご感想

※回覧でお読みになった方には、本号を郵送します。ご希望の方は①②を明記の上、「Vol.114希望」とお書きください。なお、プレゼントのご応募と同時にお申し込みいただく場合は、①～④を明記の上、応募締切日必着でお願いします。

応募先

郵　送：〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
日本赤十字社静岡県支部　組織振興課
ＦＡＸ：054-254-5830　メール：koho@shizuoka.jrc.or.jp

応募締切

平成28年10月31日（月）必着

当選者発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。

日本赤十字社
静岡県支部
〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
TEL 054-252-8131 http://www.shizuoka.jrc.or.jp

この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。